

INDEX

- ① スリランカ親善の旅報告
- ② 児童施設より
- ③ 法人新人職員交流会
- ④ 法人たすきリレー
- ⑤ 極楽坊あすかこども園・竣工
- ⑥ 役員会報告
- ⑦ 児童施設より
- ⑧ 高齢者施設より
- ⑨ 海への里帰り
- ⑩ 役員会報告

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911



スリランカ親善の旅報告

「マヒンダ国際仏教興隆協会創立六十周年記念式典に招かれて」

理事長 辻村 泰範

2023年6月9日午後2時過ぎにヒルトンホテルを出発したマイクロバスは白バイとパトカーに先導され首相官邸の通用ゲートに到着した。

スリランカのマハーマヒンダ国際仏教興隆協会が創立六十周年記念式典を開催することになったので、会長のナンダワンサ先生があなたのことを表彰したいと言っている。何とか日程調整できないかと、連絡してきたのはセートウンガ君であった。

昨年5月に亡くなったシロガマ・ウイマラ師のあとを引き継いでNESEEC財団の運営委員会会長を引き受けてくれている。ウイマラ師の元でボランティアとして少年の家などの運営に参画し、全国社会福祉協議会のアジア研修生として来日、その後筑波大学で教育学博士号を取った秀才だ。細かいことは彼に任せることにして招待を受けることにしたのだった。

このスリランカの組織は、ウイマラ師の師匠であったバツデガマ・ウイマラワンサ大僧正が仏教の国際的な発展を願って創設されたスリランカの宗派を超えた仏教組織である。式典は首相官邸のホールを会場に開催された。保安検査の厳重な

場所だから当然招待されている人たちも限られていたようだ。我々表彰を受ける僧侶たち10名はキャンディダンサーの踊りと国旗や仏旗を掲げた隊列の先導でホールに入場、ステージの上に設けられた席に案内された。観客席最前列には首相、法務大臣、宗教担当の文教大臣、国会議員など来賓が居並び我々日本からの参加者10名もその後ろに並んでいる。多くの僧侶や制服姿の生徒たちも後ろの席を占めていた。

司会者の開会アナウンスの後ナンダワンサ会長を始め式典を共催するスリランカの三つの宗派の代表役員の歓迎の挨拶が続いた。続いて表彰を受ける僧侶15名を代表して3名がスピーチをすることになっていた。中国に続いて私の番だ。事前に原稿を送ってセートウンガ君に英訳してもらった原稿を読み上げ席に戻ると隣の席の旧知のソーマワンサ師がとても良かったと褒めてくれた。表彰を受けたのはインド、アメリカ、イタリア、イギリス、中国、マレーシア、日本、シンガポール、韓国と地元スリランカの10カ国から選ばれた15名である。

2面に続く



いよいよ表彰式に移ると、ステージの下の席からグナワルデナ首相が一人一人僧侶の前に軽く跪き賞状と記念品の仏塔が手渡された。日本とは全く逆のやり方だ。私の賞状には日本とスリランカの友好親善に業績を尽くした菩薩行の実践者という称号が与えられていた。故辻村泰圓僧正が先鞭をつけ、元興寺関係者が築いてきたスリランカへの仏教徒としての支援のあり方が評価され私が代表して賞をいただいたということである。

表彰がおわると首相の挨拶や来賓の挨拶があつて最後にスリランカ国歌が演奏されて式典は終了した。

ホテルに戻って記念品の仏塔を開けてもらうと中には、インドの四大仏教聖地、釈尊誕生地の地ルンビニ、悟りの地ボドガヤ、初めて説法されたサルナート、入滅の地クシナガラで採取した小石が入っている。仏教徒にとってなんとも有難い記念品であつた。

帰国後、なかなかセートウンガ氏と連絡がつかずその後の事情が把握できず心配していたが、彼から嬉しい知らせが届いた。スリランカ国立教育研究所の総裁に就任したとのこと。現地の新聞にも大きく報道され、スリランカの教育や教師の育成に大きな展望が開かれるであろうと彼の手腕に期待が寄せられているとのこと。偉い人に気安く世話をさせたものだ。ウイマラ師が育てた人材が今や国の教育界のトップの座に座って教育改革に取り組もうとしている。

法人本部に事務局を置く日本スリランカ仏教福祉協会が支援を続けてきたことが表彰の理由であることは間違いない。それも仏教興隆協会の創設者ウイマラワンサ大僧正と泰圓大僧正の出会いがなければ話は始まらなかつたのだ。シロガマウイマラという熱い青年僧との出会いも二人の偉人に導かれていたのだ。ピーちゃんことシロガマウイマラ師の熱に感化されて育った人物が今や大木となって若木を育てようとしている。ウイマラの渦に多くの人々が喜んで飛び込んで行った。ウイマラ熱を冷ましてはいけないと改めて胸に刻む旅となつた。

法人新人職員交流会

特別養護老人ホーム延寿
介護職員 中森 弦介

今までは、4月に入社された新人職員を歓迎するべく法人全体で祝う場として新人交流会が行われてきましたが、ここ数年はコロナ禍で開催することが出来ませんでした。ですが、今年度は、3年ぶりに開催することが出来ました。



今回、私は実行委員長を務めさせて頂きました。実際に実行委員の皆さんと集まったのは、たった1回だけで時間も1時間のみでした。短い時間の中で、委員長や副委員長、買い出し班、レクリエーション、受付等に役割決めを行い、当日までそれぞれの分かれた役割り毎に連絡を取り準備する物等を決めていくという流れでした。決めていく中で、当日の天候が悪い事が分かり、ギリギリのタイミングで、屋外でのBBQから屋内でのケータリング形式でのおもてなしとなりました。

当日の新人職員交流会では、お昼過ぎに実行委員が集まり、二手に分かれて買い出しに向かいました。買い出し班の皆さんが予約をして下さり円滑にまわることが出来ました。その他も、お酒やおつまみも買い出しに参加した職員がそれぞれ積極的に意見を出し合い買い出しに行きました。一通り買い出しが終わり席のセッティングを行い、新人職員の皆さんを迎える準備ができ、時間になり新人職員の皆さんが次々に来て下さいました。最初は、法人全体の新人職員が集まる中で、顔も名前も知らない為か、不安そうな方もおられました。少しでも緊張感がなくなるよう実行委員と同施設の後輩職員が積極的に話をしていく中で、新人職員の緊張感もほぐれ、近くに座っている同じ新人職員と会話する場面が多々見られました。

テーブルは7つありそれぞれのテーブルに実行委員が2人は座り、実行委員が中心となりお酒を飲み、お腹を満たしながら話をする形にしました。実行委員、新人職員共にお酒がまわり饒舌になり良い雰囲気になりました。時間も進みレクリエーションを行いました。

内容としては、受付時に貰ったカード毎にグループ分けを行い、なぞ解きをしていくという形でした。前の席とは違い、席替えを行った後でも、初見の職員の中でも、グループ毎に皆で考え意見を出し合いとても良い雰囲気で行うことが出来ました。終わりの時間を迎え、心なしか私の中での時間経過が早く、私も実行委員の立場ではありましたが、とても有意義な時間を過ごせたと感じました。

今回、委員長を務めさせて頂きましたが、自分自身このような役をしたことがないため、力不測の点が多々ありました。ですが、実行委員や研修委員の皆様のご協力があったからこそ、新人職員の皆さんと一緒に有意義な時間を過ごせたと感じました。この経験をこれから活かしていきたいと思えます。



極楽坊あすかこども園

かねてより建設中の新園舎が、9月29日に竣工、10月10日から新園舎での生活が始まりました。9月30日には落慶法要・竣工式を執り行い、園内外の関係者が多数集まり、完成をお祝いしました。

新園舎
竣工



今回は、新園舎の設計・建設に関わってくださった方々から、いろいろな思いやエピソードをお伺いしました。

設計・監理

株式会社 教育施設研究所

島野 美樹さん
志多野 智宏さん



島野 美樹さん



志多野 智宏さん

新園舎竣工、まことにおめでとう
ございます。
本事業の設計業務のお話を頂き、
竣工まで約2年半の期間は、今
思うと非常に早かったように感じ
ております。
設計・監理において、主体担当
者である島野から、新園舎設計に
対する思いを述べさせていただきます。

Q 園舎設計に込めた思いは？

子どもたちが、安心・安全にのびのびと過ごし、好奇心を育みながら、心も身体も大きく成長する場となってほしいという思いを込めて、設計を行いました。

Q 設計で一番こだわったポイントは？

ポイント1
子どもスケールの
魅力的な空間づくり

移動の起点となる階段・廊下廻りには、わくわくするような仕掛けをつくりました。
昇降口から見える南階段の格子状の壁面や北階段廻りの図書コーナーと絵本コーナー、廊下に点在するアルコーブです。天井高さや広さを子どもスケールに合わせ、子どもたちのふれあいを促す空間としました。図書・絵本コーナーには、カーペット敷きの場所や腰掛けにもなる段差ベンチをつくり、子どもたちが好きな場所を選べるように工夫しました。

ポイント2

明るく心地よい内装

貴園創立の基の元興寺やならまの漆喰部分をイメージした白色と木質系仕上げを中心に、クラス名称のカラーを随所に鏤め、明るく温もりのある心地よい空間をつくりました。

ポイント3 落ち着いた外観

水平線を強調した大屋根で覆ったおひさまホール（遊戯室）、杉板本実型枠調のパネルや落ち着いた温かみのある色調の外壁によって、力強さと自然に調和するこの奈良の地らしい園舎をイメージして表現しました。

Q 設計で一番苦労したところは？

子どもたちがのびのびと過ごしやすく、貴園やいっぽのびの関係者、ご利用者が、使いやすく子どもたちを見守りやすい空間をつくることです。設計時には、課題をひとつ解決すると次なる課題に挑むことの連続でしたが、辻村園長先生や徂徠センター長、皆様と打合せを幾重にも行い、ご尽力を賜り、つくりあげていくことができました。

Q 新園舎を使う

子どもたちへのメッセージを

あいさつひろばでの挨拶から生活が始まり、保育室ではお友達や先生方と遊んで学び、園庭やホールでは思う存分に体を動かし、時には小窓から給食室を覗き、図書・絵本コーナーでゆつくりと過ごしたりと、人とのつながりを感じながら様々なことを経験し「やさしい心と健やかな身体」

を育むことを期待しております。この園舎で過ごした日々が、笑顔あふれる素敵な思い出として子どもたちの心に残ることを望みます。

施工者

株式会社 鴻池組

現場事務所長 武藤和弘さん



武藤 和弘さん

今回の建設工事の現場で所長として全体を取りまとめていただきました。令和4年11月の着工からおよそ10ヶ月にわたり、この新園舎ができあがっていき姿を最も近くで見守ってきて下さりました。建設工事は様々な専門の職人さん達が役割分担をしながら進めていくチームプレーであり、武藤さんはまさにチームキャプテンのような存在です。

Q 新園舎で一番好きなポイントは？

子ども用のトイレですね。かわいらしいし、年齢によって微妙に高さや作りが違っていているところがいいと思います。

Q 工事の中で苦労したことは？

工事の搬出入の車両が登降園の道を横切ることになるので、子どもたちの事故が起らないように気をつけていました。特に、工事が進んでいくと出入口が1カ所に絞られるので、安全確保に苦労しました。

Q 新園舎を使う

子どもたちへのメッセージを

建物は使ってもらって生きてきます。この新しい園舎のように、広々とした心を持って伸び伸びと育って欲しいと思います。

株式会社 鴻池組

主任 穴田雄一さん



穴田 雄一さん

現場の主任としてご活躍いただいた穴田さん、子どもたちにとっては、キャラクターを描いてくれるおじさんとして大人気でした。工事現場の出入口にあたるアスファルトの上に、工事用のチョークを使って様々な絵を描いて下さり、登降園で前を通る子どもたちは大喜びでした。

Q 一番人気のあったキャラクターは？

ポケモンが人気がありましたね。子どもたちからリクエストがあったものを描いていたのですが、私の子どもも大きいので、アニメを見ることがなくて…。正直などころ名前も分からず、スマホで調べながら描いていました。これまでのにべ25種類ぐらいは描きましたよ。

Q 描くのが一番難しかったキャラクターは？

「リザードン」というポケモンのキャラクターが一番難しかったです。とても大きかったのです。

Q 新園舎を使う

子どもたちへのメッセージを

子どもたちが毎日ハイタッチをしてくれて、嬉しかったです。この新園舎で、いつも子どもたちに幸せない風が吹きますようにならずと続くならここにいたかったです。残念です。また、遊びに来たいと思います。



思いを繋ぐ法人たすきリレー 第5回

極楽坊あすかこども園

9月30日落慶法要・竣工式の様子



真言律宗管長・西大寺長老 松村隆誉猊下導師の元、落慶奉告法要を厳粛に執り行いました。



理事長式辞



愛護会長より現場所長へ花束贈呈



竣工式典では、極楽坊あすかこども園・いっぽの子どもたちがくす玉を開いて完成をお祝いしました。

児童施設より

7p

いこま乳児保育園

8p

生活支援センターあすなろ

いこまこども園

9p

児童発達支援センター仔鹿園

あすかの保育園

10p

奈良県発達障害者支援センターでいあー

平城児童センター

11p

児童発達支援いっぽ

極楽坊あすかこども園

12p

いこま乳児院

初めてクラスリーダーになって

4月で保育士3年目になりました。今年度は、去年に引き続き2歳児クラスの担任をさせて頂いています。また、初めてクラスリーダーという立場にもなりました。新年度が始まった頃は、新しいクラスでの子どもたちの出会いに心が弾む思いでした。「クラスリーダー」という立場になって、子どもたちが保育園で充実した一日を過ごせる為には、どのような保育をしていけば良いのか、クラスリーダーとして、様々な分野に視野を広げて動いていけるのかという不安がある中で4月を迎えました。子どもたちが楽しく過ごせているだろうか、どのような活動を保育の中で取り入れていったら良いのか、一人で考え過ぎることが多くありました。その時に、先輩の先生から「みんなでしよう」「みんないるから大丈夫だよ」という言葉を掛けて頂きました。その時、気持ちがすごく軽くなり、自分の周りには、助けてくれる先輩方が沢山いてくださることがわかり、とても心強く感じました。また、チームで動くという事の大切さも改めて気付かされました。2年連続で2歳児クラスの担任をして、去年学んだ事を活かしながら見通しを持って、

いこま乳児保育園

リーダー保育士 吉川 瑞莉

保育を考えられるようになりました。半年が過ぎ、4月当初は緊張や不安な思いがありましたが、今では毎日楽しく子どもと向き合いながら保育ができています。

コロナ禍の学生期間で実習も制限されて不安だらけの就職。行事等も制限されていた2年間。5類になった今、行事等も少しずつ再開される中で、私自身も初めてする経験が沢山あり、学ぶことが沢山あります。それを子どもたちと一緒に楽しみながら学んでいきたいと思います。



本のだんご虫とおんなじやな〜

「生活支援センターあすなろ」は、未就学～中3までのお子さん・保護者が相談できる市から委託された相談支援機関です。お子さんが必要なスキルを獲得し、生活しやすくなるための方法や道筋を一緒に考えたり、保護者が前向きに子育てに向き合うことができるよう、気持ちに寄り添った伴走型の支援を続けています。

発達障がいという言葉を目にするのも昨今増えてきているかと思いますが、療育希望のご相談も年々増えており、サービス調整に追われる日々です。相談員のマンパワー不足が年々深刻化しています。丁寧に関わりたいのに時間が足りない…葛藤する毎日です。

ここ数年続くコロナは、大人の混乱以上に子どもに与える影響が大きく、心理的なしんどさが表面化しました。学校に行きにくい、集団活動に参加しにくいお子さんが増えてきている現状です。

お子さんにとってどんなサポートがあれば、「やってみよう」「できた」を感じることができるのか…保護者と支援者がチームとなって、一人ひとりに合ったサポート体制を日々模索するとともに、相談員自身も事業所内等で研修会を開催しながら研鑽を積み、「相談してよかった」と思っていただけのように成長していきたいと思っています。

行事が戻ってきたよ!

コロナ感染症が5類に引き下げられ、ようやく以前の生活に戻りつつあります。

6月には、平日午前中に1時間程の保育参観を行いました。密にならないよう人数制限や各年齢で日程を分けるなどし、日ごろの子ども達の様子を見ていただきました。また、今まで見合わせていた園行事も、少し形を変えながら行いました。年長児の「お楽しみキャンプ」は、名称のようにこども園での1泊。久しぶりのお泊り保育に子ども達はもちろん、保育教諭もワクワクドキドキでした。

今夏は夏まつりを保育中に行い、大人数を避けるため子ども達と保育教諭で楽しむものに変更しました。当日は、ホールに集まり、職員の出し物を見た後、園長先生からアトラクションチケット



幼児クラス保育参観の様子

いこまこども園

主幹保育教諭 辰己 章子

をもらい、いざアトラクションへ。4つのアトラクションを用意し、店番には、年長児と数人の保護者の方にお手伝いをお願いしました。幼児クラスの子供達は、背中に景品を入れるリュックを背負い、保育教諭と共に魚釣り、ボール入れ、千本引き、スーパーボールすくいと順番に回りそれぞれ楽しんでいました。乳児クラスの子供達は、千本引きで紐を引っ張り、玩具が出てくると大喜び。大切に抱きかかえて歩く姿がみられ、ほほえましい光景でした。道具や景品を渡したりシールを貼ったりとはっぴを着てお手伝いする青組さんの姿は、とても頼もしく成長を感じることができました。最後には、みんなで「ふれあい音頭」を踊り、楽しい夏まつりを終えました。



みんなで「ふれあい音頭」を踊ったよ

新しいクラスや環境に不安や期待を抱きながらスタートした新年度から半年近くが過ぎました。子どもたちも環境に慣れ、先生や友だちと一緒に元気いっぱい走り回っています。

今年は新型コロナウイルス感染症がら類感染症に移行されたこともあり、夏祭りやこじかのひろば等のイベントを以前に近い形に戻す方向になりました。数年振りのため忘れていたことも多く、「あーでもないこーでもない」とみんなで過去の記憶を辿りながらやり方を模索しています。9月からは運動会の練習がスタートし、大人も子どもも本番に向けて一生懸命取り組んでいるところです。

私事ですが、今年度初めてクラスのチーフを任

され、今までとはまた違った観点で業務をこなしていく必要がありました。今までの業務に加えて、クラス全体の運営や保護者対応等考えることが多くなりました。積み重なっていく目の前の業務に追われてバタバタ過ごしていますが、周囲に助けをもらいながら、一つ一つ取り組んでいます。クラスとしては、子どものより良い支援を目指しつつもそのために職員に過度な負担が掛からないようにバランスを考え、クラス運営を行っていきたいと思っています。運動会、クリスマス会、こじかのひろばとまだまだイベントが目白押しですが、年度末に笑顔で卒園式や新年度を迎えられるように大人も子どもも無理し過ぎないより良い療育を目指していきたいと思います。

ジュースやさんにいらっしやい!

あすかの保育園

保育士 原田 愛子

今年度は1歳児クラスから持ち上がり、2歳児クラスの担任になりました。昨年度よりパワーアップした子どもたちと、毎日元気で楽しく過ごせることを嬉しく思っています。

今年の夏には久しぶりに奈良北高校の高校生と交流する機会があり、中庭で色水あそびを一緒にしました。お姉さんたちが水の入ったペットボトルを振って水と絵の具を混ぜ合わせる様子を見て「わー!すごい!」と大喜び!その色水をお姉さんたちが自分のカップに注いでくれるのをじっと見つめながら嬉しそうに待っていました。初めは入れてもらうことが嬉しい子どもたちでしたが、そのうちテーブルの上にはいろいろな色水が並び始めると、「入れて」「これ、ちょうだい」とお姉さんとやりとりしながら遊ぶことがおもしろくなってきました。その後、お姉さんたちの真似して自分でペットボトルからカップに移してみたり、「どうぞ」とお友だちに渡してあげたりする姿があちらこちらで見られました。

今まで、見立てあそびも保育士とのやりとりが多かったのですが、高校生との交流を通して、子どもたちが保育士以外にも目が向き、他児ともかかわって遊ぼうとするきっかけになりました。高校生とふれ合って遊んだことが子どもたちに

とってよい経験になったと思います。

水あそびが終わっても楽しかったあそびが部屋でもできるように、色水を入れた小さなボトルをたくさん用意してみました。お姉さんたちと遊んだ色水あそびがジュースやさんごっこに発展し、子どもたちが大好きなあそびの1つになりました。毎日カップやボトルを並べて、「いらっしやいませ」「ジュースですよー!」と友だち同士で声をかけ合いながら“ジュースやさんごっこ”を楽しんでいます。

これからも、子どもたちの“おもしろそう”“やってみたい”という気持ちを大切に、イメージをふくらませながらごっこあそびを楽しんでいきたいと思っています。



奈良北高校生との交流

相談員 村上 雛子

Q-SACCSというツールをご存知でしょうか？2018年に本田秀夫氏らにより開発された地域における発達障害児者の支援体制を分析・点検するための地域評価ツールのことです。ライフステージに応じた切れ目のない支援体制構築を目指し、「支援の隙間」と「つなぐ」を「見える化」するために、市町村レベル、都道府県レベルの課題に気づき、対応を考えていくというものです。

今年度より実際の活用に向け、子ども家庭庁の方を招き、県内3つの市町村に向けて、概要の説明や活用方法等を話していただきました。

発達障害の方を地域で支援するためには、自分が包括的な支援体制の中でどのような位置づけで仕事をしているのか等も踏まえて、奈良県内の地域の支援体制を理解しておくことが必要だと再認識しました。

現時点ではまだ3つの市町村をモデル地域として試している段階ですが、ゆくゆくは県内すべて

の市町村に活用していただき、当事者、支援者ともにスムーズに支援につながる仕組みができればと思っています。

そのために私自身も日々の業務にあたる中で、相談者に対して、自分の役割は何か、でいあーとして何ができるのかを意識しながら取り組んでいきたいと思います。



自然の中でオリジナル作品を作ろう!!

平城児童センター

センター長 徂徠 おさむ

センターでは様々な伝統工芸の体験の活動を行っています。これまではサークルの会員だけの事業でしたが、今年度は初めての取り組みとして「子どもゆめ基金」の補助事業として幅広く公募して行いました。

7月9日には公募と会員併せて26名が参加しました。最初に窯元の小川二楽さんから赤膚焼きの歴史や作り方説明があり、子どもたちから「歴史や作り方」に関してのいろいろな質問がありました。

「何を作ろうか」と考えながら作り始め、何回も

作り直し、途中では先生に聞きながら2時間ぐらいで仕上げることができました。

公募で参加した子どもたちも会員と見分けがつかないくらい熱心に取り組んでいました。

作品は窯で焼いてもらって3カ月ぐらいで出来上がりますが、赤膚焼きの特徴を活かした「世界にひとつだけ」の作品が出来上がることを期待しています。

10月にも公募事業として「奈良筆作り体験」を予定しています。深まりゆく秋とともにキャンプや様々な体験活動を行っていきたくて考えています。



次の一歩(いっぽ)へ・・・!

いっぽの横の公園の毎年恒例の割れんばかりのセミの大合唱が聞こえなくなり、代わりに鈴虫の優しい声が聞こえるようになってきました。いっぽの子どもたちは暑い夏の間、セミの合唱にも、うだるような暑さにも負けず、元気いっぱい!たくさん遊んで、ちょっと遅い顔になったように思います。

現在いっぽでは10月の新園舎への完成を控え、職員一同で引っ越し準備の真っ最中です。倉庫の中から、部屋の奥から、いっぽ中から荷物を引っ張り出し引っ越しに向け整理をしていきますが奥に進めば進むほど12年分のあれやこれやが出てきます。

「これ何の衣装?」と言って黒子に馬のかぶりものが飛び出し、「あー!こんなの作った!」と色々な作り物が出てきて、「この玩具、あの子が好きやったなあ。元気かなあ」としみじみ、、、一つ一つ手に取ってみんなで「こんなことあったねえ」と箱に詰めていきます。

児童発達支援いっぽ

保育士 大島 友美

色々な事があった12年間。何かある度に職員みんなで話し合い、考えながらまさに「一歩、いっぽ」歩んできました。様々な変化を経て、今のいっぽがあります。新天地でもその思いを大切に。次に待ち受ける事にわくわくしながら!元気いっぱい子どもたちと、それに負けなぐらい元気な職員一同で新たな「いっぽ」を踏み出したいと思えます。



70代のイヤイヤ期、50代のはっちゃけ期、いえーい!!

行事も少しずつ再開です

今年度は新園舎への引っ越しを考慮して6月に行った運動会。2、3歳児と4、5歳児の2部制で開催し、年長児の鼓隊はありませんでしたが例年同様に、手作りで喜怒哀楽がいっぱいの運動会となりました。7月には5歳児は合宿保育でピックバンに行った後、園で泊まりました。この園舎で泊まるのも今年で最後なので感慨もひとしおでした。

敬老のつどいでは4、5歳児がクラス別に祖父母をお迎えして、「お寺の花子さん」などのわらべ歌や「ジャンケン列車」や「どろぼうネコとネズミけ



極楽坊あすかこども園

リーダー保育教諭 矢島 智穂

いぶ」などのあそびうたで楽しいひとときを過ごしました。9月末には幼児参観で3、4、5歳がそれぞれ朝の会で歌声を響かせ、親子でふれあって遊びました。

そしていよいよ新園舎へ引っ越しです。乳児さんも渡り廊下から毎日工事車両を眺めて大喜びの日々の中、ついに新園舎が完成しました。5歳児が新園舎のお披露目で鼓隊を披露するので張り切って練習をしています。「アンダー・ザ・シー」「マツケンサンバ」の曲に乗って楽しい園生活が始まる予感がしています。



新しい生活のスタート

いこま乳児院

主任看護師 関口 直見

5月からコロナが5類になりました。コロナ以前の生活を知らない職員が多数になり、『元の生活に戻す』のではなく、『新しい生活』をスタートすることになりました。

こどもたちは、マスクをしない職員の顔を見ることに慣れておらず、マスクを着けていないと「マスクして」と言っていました。今までは見えていなかった口元を見て、動きを真似ようとする児もいました。

幼児は、行けなかった遠足に出かけられるようになりました。いつもは見ていただけだったケーブルカーに乗ったり、図書館で自由に本を選んで見たり、職員と一緒に弁当を食べる等、楽しい一日を過ごせました。少しずつ社会体験を増やせばと思っています。



ブルにのりました♪

職員は、Web研修から参集型の研修へ参加する機会が増えました。近畿乳児福祉協議会(滋賀県)では、分科会で当院の看護師が昨年のコロナクラスター時の事例を発表し、今後の課題などを話し合いました。全国乳児院研修会(岐阜県)では、地域の中での乳児院の役割強化について学びました。他施設の方と会って話をする機会が無かったので、グループ討議は盛り上がり、話が尽きませんでした。

プールやすいか割り等夏を楽しんでいた8月下旬、またもや過半数のこどもがコロナ感染しましたが、重症化する児はおらず、早々に終息することが出来ました。5月以降も感染者は減少しておらず、今後もコロナを含めた感染予防対策が必要になってきます。正しい知識の共有とウイルスに負けない体力作りをしていきたいと思います。



全国乳児院研修会に参加しました



高齢者施設より

13p

■ デイセンター寿楽

14p

■ 梅寿荘居宅介護支援センター
■ 梅寿荘

15p

■ 特別養護老人ホーム延寿
■ はあとぼーと梅寿荘

16p

■ 梅寿荘デイセンター
■ デイセンター憩の家

17p

■ 特別養護老人ホームあくなみ苑
■ 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

変わったこと、変わらないもの

上半期を振り返ってみると、新型コロナウイルスが日本で流行してから3年余りが経過した今年の5月に、政府が新型コロナウイルスの感染法上の分類を5類へ引き下げたことが記憶に新しいです。これによってマスクの着用や、濃厚接触者の把握に対する措置等が変わりました。今ではプロ野球や音楽ライブなんかをテレビで観ていても、マスクを着用している人を見かけることはありません。新型コロナウイルスが無くなった訳ではないことは誰しもが知っていることなのですが、皆が笑顔で声を出してアフターコロナを満喫しています。デイセンター寿楽でも待っていましたと言わんばかりに「買い物に行こう!」「バーベキューをしよう!」「ボランティアさんに来てもらって、盆踊りをしよう!」と職員が様々な企画を提案し、実行してくれました。決して感染症対策を怠っているわけではなく、介護看護が連携をしながら根拠に基づいた感染対策を現在も2類の時と同様に実践しています。こうした感染対策に対して、ご利用者からのご理解とご協力を頂いているからこそ、これまで自粛していた行事を再開する事ができたと感謝しています。

デイセンター寿楽

主任生活相談員 中島 淳

デイセンター寿楽では下半期以降も様々な季節行事を変わず企画していますし、老朽化に伴い改装中の浴室については、この記事がでる頃には新しく変わったお風呂を楽しんで頂いていることと思います。年度末には法改正も控えていて、新制度に対応すべく柔軟な変化を運営面で求められると思いますが、これからも利用者の皆様には「お変わりありませんね!」と言いながら、未永くデイセンター寿楽をご利用頂けたらと思います。



職員も一緒にバーベキューを楽しみました。

介護支援専門員研修を受けて

私達は利用者さんの「自立支援・望む暮らしの実現」のために、介護支援専門員として、仕事に従事しています。

継続して仕事に従事するには「介護支援専門員更新研修」を5年に一度受講する必要があります。この度、その時期に当たり、オンラインで研修を受けました。介護保険や介護報酬の改定等に対応していくためにも、研修することは必然となります。

2025年問題が迫ってきている中、課題が複雑化している家族形態「独居・認知症や精神疾患・医療処置の必要・支援を必要とする家族」等の要介護高齢者を支えていくためには、これまでの

梅寿荘居宅介護支援センター

介護支援専門員 山角 由紀代

ケアマネジメントでは支え切れなくなります。そのため、従来の介護保険サービス以外のインフォーマルな社会資源の利用をどう活用していくか、また地域のネットワークを通じてどう開発していくか等の研修を行いました。研修ではグループワークを行うことで、自分では思いつかないことや、色々な考えを聞くことができ、多面的に考えることが出来ました。

ケアマネージャーとして学び得た「ケアマネジメント手法」を、それぞれの利用者さんにしっかり活用して、よりよい支援を行えるように努めていきたいと思えます。

新しい年度が半分過ぎて

梅寿荘

介護フロア主任 堀本 卓史

コロナクラスターへの対応に追われた前年度の冬を経て、迎えた新年度。新型コロナウイルス感染症も5月には季節性インフルエンザと同じ第5類となり、新採用や異動してきた新しい仲間を迎え、希望をもってスタートいたしました。感染症対策を継続しながら、面会や施設行事についても、少しずつ以前の規模に近づけていくことや、重度化が進んでしまいがちなご利用者を少しでも元気に、笑顔になっていただける取り組みを進めてきました。お陰様で、フロア毎に夕食とイベントをご家族と共に楽しむ夏祭りや、居室での面会再開等を実現することができました。

一方で、新採用の職員1名と、異動してきた職員1名が半期を待たず退職するという事態がありました。施設として、新人職員にとって過度な負荷のかからないバックアップや、個々に合わせた指導、ご利用者のケアについてチームで考え、実践していくケアマネジメントを、より充実させていく必要を強く思わされています。

私たち対人援助職には、介護技術や専門的知識などのテクニカル・スキル(実務的業務遂行能力)だけでなく、円滑な意思疎通を図り、信頼関係を築くための力、ヒューマン・スキル(対人関係能力)が求められています。ご利用者に対してはもちろん、チームで仕事をしていく仲間に対しても、信頼関係を築く意識が大切になります。対人関係を築く第一歩は、挨拶に始まる、お互いを尊重したコミュニケーションです。相手への配慮を忘れずに、相手に伝わるように自分の思いや考えを伝えあうこと(アサーティブ・コミュニケーション)や、アンガーマネジメント、ストレスへの対処等について、施設内研修の機会などを活用し、改めて学び始めています。職員へのヒアリングや、人事評価のフィードバックの機会等を生かしつつ、テクニカル・スキルと共にヒューマン・スキルの成長も意識した人材育成と人材確保の取り組みを、一歩ずつ前進させていきたいと思えます。

抱えない介護

特別養護老人ホーム延寿

介護主任 大平 達也

「ノーリフティングケア」という言葉をご存知でしょうか。ご利用者の身体を人の手で持ち上げたり、抱え上げたり、ベッド上で引きずって移動しない介助方法です。車いすやベッドから移乗する際に、スライディングボードやリフトなどの福祉機器を適切に使うことにより、介護する側・される側の双方の負担が軽くなるメリットがあります。力任せにご利用者の身体を抱えてしまうと、腰痛など身体を痛めるリスクがあり、ご利用者にも不安や緊張を与えてしまいます。特養では今年度より、ベッドへの移乗時などに1人で抱える「お姫様抱っこ」を禁止しました。座位での移乗が難しいご利用者には必ず職員2人で移乗をするかスライ

ドボードを使用する介助方法で統一をしています。抱えない介護を取り組むうえで、正しい使用方法の習得はもちろんですが、ご利用者が安心して居るか、安全だと思っているか、思いや表情などをしっかりと確認したうえで介助方法を決めることが大切だと感じました。また、適切な福祉用具を揃えていくことも必要です。現在は各フロアと浴室にスライドボードを置き、どこでも使用出来るようにしています。その他に移動リフトを活用した排泄介護の実践と、抱えない介護の定着に向けてスタートしたばかりですが、介護の質の向上や労働環境の改善にも繋がるので、積極的に取り組んでまいります。

活気の戻ったヘルパーステーション

はあとぼーと梅寿荘

主任 金田 智子

この3年間、コロナ対応でずいぶん制限のある活動になっていました。ここ最近、気分的には少しずつ明るい兆しがみえる様に感じていますが、身近な所での感染も多くまだまだ油断はできないと思っています。

毎月、実施していた研修もコロナ禍では課題を出して、レポート提出といった形式で実施し、集団での研修はほとんどできていませんでしたが、4月より久しぶりに皆が集まっての研修を再開し、各ヘルパーさんの意見を聴く機会が増えました。グループごとの話し合いや、各個人の意見発表など対面ならではの活発なものでした。先日3年ぶりに応急手当の研修を消防署の方に来て頂き実施しました。ビデオ視聴をしていましたが忘れていたこともあり体験することの大切さを実感しました。また、ターミナルケアでは、訪問しているヘルパー同士が顔をあわせる度に変化する利用者さんの食事、体位の保持、排泄の工夫などを話し合い

ました。ご本人が食べたいと言われたものがどこで購入できるか、一人一人が気にかけて探して食べて頂きました。ノートやメールでの情報交換よりも、瞬時に確実に理解ができケアに役立てることができました。ヘルパーが集い、活発な意見交換をすることで、利用者さんの生活を支援していこうと思います。



救命救急

新しい年度が半分過ぎて

梅寿荘デイセンター

介護職員 中村 宗司

令和5年度上半期を振り返り思い返されるのが、コロナウイルス感染症の第5類感染症への移行だと思えます。マスクの着用が個人の判断となり色々な規制が撤廃され日常生活は以前のような風景に戻りつつあります。しかしながら、高齢者の方々に利用して頂く梅寿荘デイセンターでは感染症対策を怠るわけにはいきません。マスク着用の声かけ、手指の消毒、定時検温は継続してきっちり行っています。コロナ前ではフロアに器械運動の器具を設置し、器械による運動サービスを皆様に提供していました。器械の消毒作業が完璧に行えない為、現在では少人数のグループを作り、新聞紙を丸めて作った棒による棒体操をメインにした少人数グループ体操を皆様に提供しています。少人数にする事により、ご利用者一人一人と顔を

合わせ表情や仕草、様子の変化により一層気づくことが出来るようになりました。コロナ禍で体調面の変化に注視した気づきの力をより一掃磨きをかけています。利用者の些細な言動なども職員同士で情報共有を行い、その方の思いに共感する。そして、その情報や推察される思い等を直ぐに担当ケアマネジャーに報告する。上半期を振り返り利用者の在宅生活を支えていく上で基本となる「職員一人一人の気づきの力」と「ケアマネジャーへの迅速な報告」がどこまできっちり行えていたのか振り返りを行いつつ、下半期も基本的な事を丁寧にい行いご利用者、ご家族様、ケアマネジャーに信頼していただける梅寿荘デイセンターを目指していきたいと思えます。

相手の気持ちになって考える

デイセンター憩の家

生活相談員 友國 和之

以前にも認知症の人の世界を知るためのコミュニケーション技術の研修内容について記載させていただいたことを、梅寿荘地域包括支援センターあずさで、一般の方に発表する機会を設けていただく事がありました。発表内容は普段から憩の家での認知症支援の中で、その人の世界観を知れば行動の意味を察することが出来るというもので、それは認知症の症状がある方に限らず人と人とのコミュニケーションに役立つのではないかというものでした。発表の資料を作るにあたり、実際に起きた出来事や、事例からその意味を知っている範囲内でお伝えするつもりでした。

発表するまではそれほど緊張することも無かったのですが、当日は質問にお答えしながら進める

その中で、理想と現実とのギャップがあったのではないかと感じ、聞いて下さるおひとりおひとりの人生も様々で、自分の経験だけの尺度で図れるものなのか、本当に自分はこの原則をしっかりと理解できているのか、発表させていただいた後からの改善すべき点も多く、良い勉強をさせていただきました。当日記載して下さった皆様方のアンケートも拝見させていただき、その中でも「地域包括さんが色々な催し物に参加させて下さる事が、私の支えとなり、力になります」と記して下さっていた方もあり、何よりうれしく感じました。私にとっても、良い機会を作って下さった事に感謝いたします。

今回、「新しい年度が半分過ぎて」との内容でこの原稿を書いています。はて、もう新年度から半年も経ったのか？早すぎるのではないのか？この半年で何か為せたのだろうか？と内心慌てております。

私事はさておき、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行して10月で約5か月になります。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した事で、あくなみ苑では今まで行えていなかったり規模を縮小して行っていたりした年間行事が4年ぶりに通常規模で行えるようになりました。3年間行えていなかった行事のひとつに流しそうめんがありますが、今年は9月に3日間開催され、デイサービスセンターとケアハウスの御利用者、特養1階の御利用者、特養2階の御利用者がそれぞれ

参加をされました。この3年の間に新たに入苑された御利用者に喜んで頂けたのは勿論のこと、コロナ渦以前より入苑されていた御利用者にも「久々の流しそうめんや」と大変喜んで頂けました。

その他に、規模を縮小して行っていた夏祭りが完全復活を致しました。地域住民の方々を招待し、各町長にも参加して頂けました。なによりも御利用者と御家族が屋台の食べ物や飲み物を一緒に召し上がって頂けるようになった事が一番大きな変化だと思います。

5類に移行したからと言ってウイルス自体の感染力が弱くなったわけでもなく、油断は禁物と言ったところですが、徐々にでも以前のような当たり前の生活に戻って行ければと思います。

学びの一年

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

介護支援専門員 諫山 直子

生駒市役所の地域包括ケア推進課基幹型地域包括支援センター係で職員派遣研修生としての業務を担い3年目の今年度、私が配属されて半年が経ちました。右も左も分からず、慌ただしく過ごしているうちに史上最高に暑いと言われた夏が終わり、秋の気配も感じられるようになりました。

基幹型地域包括支援センターでは、虐待や支援困難ケースの対応だけでなく、生活困窮や80-50家庭、様々な疾患で家族全員に支援が必要なケースや、既存の制度の狭間に陥る方の重層的支援等、今まで以上の多くの機関との連携が必要となるケースを扱う事が殆どです。

ご本人の生命を守る為、権利を守る為、日々ケース会議等を行っています。私達の支援は、

「高齢者虐待防止法の根拠に基づいている」という事を身をもって知る事ができました。

その他、各地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員や生活支援コーディネーターの方々と、認知症啓発についてや、地域の通いの場や地域資源の開発等の話し合いにも参加しています。

私自身の知識不足により分からない事が多々ありますが、またとない勉強のチャンスをいただき、梅寿荘地域包括メンバーの一員としてもこれまで通り連携をとりながら、市役所職員の皆様や研修中に関わる多くの方々から、1つでも多くの事を学べるよう精一杯頑張っていこうと思っています。

今年の海里は、気合い全開!

(学童の部)

児童指導員 丹下 隼斗

新型コロナウイルスの規制が緩和され、職員も子どもも行け行けGo, Go! 8月8日~10日の2泊3日で京丹後、久美浜方面まで行ってきました!!

バスを一台貸し切り、車中では、大人気のswitch(ゲーム)を好きなだけし、体力温存?の為に寝ている子どもいましたが、和気あいあいとした雰囲気、いいスタートを切れたと思います。

京丹後のサービスエリアに到着し、お待ちかねの昼食!バスに乗っていただけなのに皆お腹ペコペコ…。自分たちの好きなご飯を注文して食べました。カレーやうどん、たこ焼きまで!美味しいご飯に笑顔が溢れていました。

そして、3日間お世話になる旅館【久美浜温泉 湯元館】に到着!! 夕食まで時間がある為、旅館から出していただけるバスに乗り、いざ!海水浴に!!浮き輪を自分たちで膨らませ、水着に着替えて準備万端!葛野浜海水浴場へ、海はすごく綺麗で、子どもたちは早く海に入りたくてウズウズ。準備体操をして海にドボン!!波は少し高く風も強く、臨海訓練とは、違った海の楽しさがありました。子どもたちは大興奮で、大人から声を掛けないと休憩をしない程、海水浴に夢中になっていました。夕食の時間が近づき、海から上がるように子どもたちに声を掛けると、「えー!まだ帰りたくない!」の声が。大人たちも子どもたちと同じ気持ちでした。

旅館へ戻り、自然に囲まれた露天風呂に子どもたちは大興奮。温泉に入り、綺麗さっぱりした後は、お待ちかね夕食です。普段あまり食べる事のできないお刺身は船盛で、大好きなジュースもたくさん飲むことができ、満足した顔を見る事ができました。夕食後は、各部屋でゲームをしたり、高校生は皆で集まってお菓子パーティーをして楽しんでいました。

が低学年と一緒に砂浜で遊んでくれたり、一緒に浅瀬で泳いでくれたりと頼もしい面倒見がいい姿を見ることができました。夏といえば、かき氷!海の家でイチゴ味、ブルーハワイ、抹茶などを食べ、その後もずっと海水浴!飽きる事を知らず、最後の最後まで夏の海を楽しみました。

楽しい海水浴も終わり、旅館に戻った後は、砂の汚れも体の疲れも落として、部屋で少し休憩をした後、夕食です。お刺身にカニといった豪華な夕食でお腹一杯にした後は、皆お待ちかねの花火です。花火をしている時の子どもたちの満面の笑みを見ると、ほっこりする気持ちになる事ができました。2日目の夜は皆疲れているのか、すぐに入眠していました。

幼児の部は大興奮!! 和歌山マリーナシティで



幼児さんは、ポルトヨーロッパへ

きれい!
幼児さん、和歌山マリーナホテルでお泊り。



2日目は、海水浴とシーカヤック体験です。美味しい朝食をいただき元気を付けた後、バスに乗り、体験のできる蒲井浜海水浴場へ行きました。海で1日遊べることに大興奮な子どもたち。ライフジャケットを着て、いざシーカヤック体験!初めてのことにワクワクしている子、不安そうな顔をしている子、、、実際体験すると「楽しい!もう1回やりたい!」との声が聞こえてきました。貴重な体験をすることができたと思います。その後は、海水浴場で遊んでいましたが、子どもたちから1日目で遊んだ、葛野浜海水浴場の方で海水浴をしたいとたくさん声が上がっていました。高めの波が面白かったようです。昼食後に移動、夕食時間ギリギリまで海水浴を楽しみました。中高生

いよいよ海への里帰り最終日です。3日間お世話になった【久美浜温泉 湯元館】に別れを告げて、天橋立へ向かいます。天気にも恵まれ、高校生は「インスタ映えの写真を撮る!」と張り切っていました。天橋立に着くと、まずは**モーターボート周遊!**ボートのスピードに子どもたちはびっくり!いい体験をさせていただきました。その後は**傘松公園**に行きました。写真を何枚も何枚も撮り、綺麗な景色を見て、最後には全員で記念写真をパシャリ。瓦投げをしましたが、誰1人として、丸の中に瓦を投げ入れる事ができませんでした。しかし!最後に菅尾兄ちゃんが投げた瓦が丸の中に入りました!天橋立を後にして昼食に海鮮丼をいただきました。美味しく昼食をいただいた後は、**お土産選び**です。子どもたちは「誰にお土産買おうかな?高いな〜。」と悩み考えている姿がありました。残っている大人や子どもたちのことを考えて、お土産を選んでる姿に、子どもたちの思いやりや優しさが見えて印象に残りました。

お土産も買い、愛染寮に向けて帰るだけです。帰りのバスの中では3日間の疲れがあったと思いますが、海での楽しい思い出を話し合ったり、ゲームをしたり、映画を見たりと楽しい時間がバスの中でも続いていました。夕食は海鮮物が続いていたので、みんなで焼肉を食べに行きました。3日間美味しい物をたくさん食べたにも関わらず、食べる事に限界を知らない子どもたちはお肉をお腹一杯になるまで食べました。**焼肉での夕食**を最後に3日間の海里は終了しました。

天気はあまり良くないと予報もされていましたが、皆の願いが届いたのか、3日間天気に恵まれ、事故や怪我もなく楽しむことができました。子どもたちにとっては勿論、大人も一緒に子どもたちとの楽しい夏の思い出を作る事ができました。

最後になりましたが、いつもご支援いただいているたくさんの方々のご協力のお陰でこのような幸せなひと時を過ごせた事に心から感謝申し上げます。子どもたちの宿題の絵日記等に宿題、会話では、海里のことばかりでした。子どもたちにとっては、海への里帰りが、心に深く残る良い思い出のように感じます。重ねてになりますが、ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました。



●2023年度愛染寮海への里帰り報告

◎学童の部

日程	8月8日～10日
場所	京都府久美浜方面
宿泊	久美浜温泉 湯元館
参加	職員4名、ボランティア2名 児童20名 計26名

◎幼児の部

日程	8月7日～9日
場所	和歌山市方面
宿泊	和歌山マリーナシティホテル
参加	職員2名、幼児5名 計7名

■里帰り支出報告 (令和5年4月1日～8月31日)

(円)

収 入	ひめゆり基金からの助成金		1,500,000		
	愛染寮自己負担分		373,115		
収入計			1,873,115		
支 出	海への里帰り (愛染寮)		(学童)	(幼児)	小計
	宿泊費	761,800	108,590	870,390	
	貸切バス代及び通行料金等	429,660	0	429,660	
	その他飲食代	233,685	26,718	260,403	
	その他 (入場料金、損害保険等)	284,862	27,800	312,662	
支出計			1,710,007	163,108	1,873,115

*今回ひめゆり基金に2,836,050円の温かいご支援を賜りました。
ほんとうにありがとうございました。

令和5年度 法人役員会等報告 (令和5年4月～9月)

【会計監査人監査結果報告会・法人監事監査】 令和5年5月25日 桃李館研修室

会計監査人による会計監査結果の報告
法人監事による令和4年度の監査

【第一回理事会】 令和5年6月14日 桃李館研修室

- 第1号議案 令和4年度予算に対する支出超過について承認を求める件
- 第2号議案 監事監査報告の件
- 第3号議案 令和4年度事業報告並びに決算について承認を求める件
- 第4号議案 極楽坊あすかこども園園舎解体工事等について承認を求める件
- 第5号議案 理事長及び副理事長（業務執行理事）の職務執行状況について
- 第6号議案 極楽坊あすかこども園の新築工事に伴う寄付金募集について
- 第7号議案 会計監査人の契約を見直す件について承認を求める件
- 第8号議案 定款の一部改正について
- 第9号議案 任期満了に伴う役員の改選及びその手続きについて
- 第10号議案 定時評議員会を招集する件について

【定時評議員会】 令和5年6月29日 ホテル日航奈良

- 第1号議案 令和4年度事業報告並びに決算について報告する件
- 第2号議案 理事長及び副理事長（業務執行理事）の職務執行状況報告について
- 第3号議案 会計監査人の契約を見直す件について承認を求める件
- 第4号議案 定款の一部改正について承認を求める件
- 第5号議案 任期満了に伴う役員の改選について選任決議を求める件

【第二回理事会】 令和5年6月29日 ホテル日航奈良

- 第1号議案 理事長及び業務執行理事の選任について

宝山寺福祉事業団役員名簿

令和5年6月29日

顧問	顧問	顧問	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事長	総裁
森	辻	宮	若山	堀本	福内	速井	新水	中田	谷村	辰口	才巳	上村	阿部	谷川	上森	安井	中本	辻村	辻村	徠万	末松	佐伯	井上	辻村	大矢
宏	泰	隆	邦純	洋重	寿一						政	眞	永	義	健	宏	泰	万	お	保	俊			泰	實
範	善	雄	弘	弥	典	忠	夫	郎	悟	誠	行	理	照	明	廣	一	勝	聡	里	さ	喜	源	太	範	圓

◆編集後記

今年の夏は、本当に長くて、とても暑い夏でした。暑さ寒さも彼岸までと言われるように残暑は秋のお彼岸までには治まり、過ぎしやすくなっているのです。お彼岸を過ぎてても日中はまだまだ夏の気配を感じる陽気が続いていたため、季節が進んでも無頓着に夏服で過ごしていた私は10月も何日か過ぎたある日、お昼から降り出した雨に急に寒さを感じたのでした。いきなり夏から深秋へとの変化にテレビのニュースでも11月並みの寒さと報じていました。

そんなある日、仕事帰りで玄関のドアに立った瞬間、ふわっと漂ってきた金木犀の香りに秋を感じて何だか懐かしい思いで一杯になりました。

△森本△

